

令和4年度 第1回北広島町総合教育会議 会議録

1. 日時： 令和4年6月23日（木） 13：30～14：10
2. 場所： 北広島町役場町長室
3. 出席者： 北広島町長 箕野 博司
北広島町副町長 畑田 正法
北広島町教育委員会 教育長 池田 庄策
委員 山田 正彦
委員 菅川 知由
委員 長田 克司
委員 大谷 美穂

(事務局) 総務課長 川手 秀則
総務課総務係長 田村 智行
教育委員会事務局
生涯学習課長 小椿 治之
学校教育課長 植田 伸二
学校教育課学校総務係長 開本 美由紀
学校教育課学校指導係長 細田 充裕

4. 欠席者：なし
5. 会議録署名者：山田 正彦
6. 協議事項：
小規模化する中学校のあり方について
7. 会議の概要
○開会
○町長あいさつ
○協議事項
小規模化する中学校のあり方について
○閉会

(総務課長)

ただ今から令和4年度第1回総合教育会議を始めさせていただきます。開会にあたりまして箕野町長がご挨拶を申し上げます。

(町長あいさつ)

本日はお忙しい中、また暑い中お集まりをいただきましてありがとうございます。教育委員の皆さま方には平素から北広島町教育行政につきまして格別のご理解ご協力を賜り感謝申しあげる所存でございます。

本日の会議では、会議次第にあげておりますとおり、小規模化する中学校のあり方について、ご協議をお願いしたいと思います。公立中学校規模適正化に向けた検討（案）について、説明をさせていただき、意見交換をさせていただければと思っております。短い時間ではございますがどうぞよろしくお願いいたします。

（総務課長）

議事録署名につきましては、山田教育委員様にお願いいたします。それでは進行につきましては、町長が議長を務めることになっておりますので、よろしくお願い致します。

（町長）

それでは議事に入らせていただきます。小規模化する中学校のあり方について資料をお配りしております。

北広島町公立中学校規模適正化に向けた検討（案）を用意をさせていただいております。これについて説明をお願いします。

（学校教育課長）

はい。失礼します。本日検討案ということで資料を出させていただきます。皆さん資料をご覧ください。

項目1番として、これまでの学校適正配置の考え方ということで、北広島町では平成21年5月、「きたひろしま・夢・まなびプラン」を策定しまして、義務教育振興基本計画を推進してきております。この間、学校の適正配置ということで、進めてまいりました。平成21年においては、小学校が17校あったものが、現在8校という状況になっております。2項目目としまして、北広島町義務教育のビジョンを記載させてもらっております。3項目目には学校適正規模・適正配置の具体的な取組項目を、4項目目が適正規模・適正配置を進める必要性。5項目目が学校給食。6項目目にここまでのまとめとしまして、平成21年5月の「きたひろしま・夢・まなびプラン」では少子化の進展に伴い、まず小学校の統合を優先した経緯がございます。言い換えましたら、中学校の小規模化も進んでいくことは見込まれていたものの、中学校への対応は遅れてきたとも言えます。昨今の教師の働き方改革や、深刻な少子化の中における生徒の持続可能な運動活動の必要性を背景とした、スポーツ庁の運動部活動の地域移行への対応等から、今後の中学校のあり方について検討の必要性が急速に高まっているというふうに考えております。このスポーツ庁の、運動部活動の地域移行に関する検討会議の提言についてというようなものが、県の方からも6月にきておりまして、非常に中学校を取り巻く環境が変わっているということが記載されております。7項目目、本町には、公立中学校が4校あります。旧町単位に1校ずつという状況となっております。8項目目、令和4年度、北広島町立各小中学校の児童、生徒数を記載しております。

中学校につきましては、生徒数が減っており、特に大朝中学校におきましては1年生が5人。千代田中学校におきましては、1年生87名のうち、普通教室80名ということで、普通教室のクラスがこれまで2年・3年は3学級だったものが2学級という状況になっております。9項目目として、今後の北広島町立小中学校児童生徒見込み数を記載しております。未就学の子供を反映させたかたちで、区域外就学、私学に進まないかたちでの、区域内に新入学したというもので、症例は10年までの見込みを掲載しております。いずれの学校も減少しているという状況にあります。10項目目、本日の次第である中学校について説明をさせていただきます。中学校等の運動部活動を取り巻く全国的な状況として、中学

校の運動部活動を取り巻く状況は、近年大きく変化してきている。少子化の進展により、中学校の生徒数や教師数は大幅に減少しています。生徒数は、第2次ベビーブーム世代が昭和61年、589万人だったものが、今まで学校数1万517校、教師数は28万だったものが、令和3年、生徒296万人概ね半減しています。学校数は9,230校、教師数は23万人に減少しております。今後も少子化による生徒数の減少が見込まれています。運動部の活動数については、平成16年が12万部、1中学校あたり11.1部。令和元年が約12万部、1中学校あたり11.3部と部数は変化していません。

中学校教師の1週間あたりの学内勤務時間は63時間20分。1か月あたりでは、時間外勤務が100時間近くに及んでいます。特に中学校では平成18年度の調査から比べて、平成28年度では、土日が1時間6分から2時間9分とほぼ倍増しています。運動部活動の負担が増えています。働き方改革等が求められる中、早急な改革が急務となっております。このような社会情勢の変化等を踏まえ、特に少子化による生徒数の減少が影響を大きく受け、学校ごとの生徒数の規模を簡単には増やすことができない。公立中学校等では、部員が集まらず、大会出場の日頃の練習すらままならない状況があります。

生徒数や教師数の関係から、現状維持するだけで精いっぱい状況であります。

そういったことに併せて、中山間地の北広島町の状況では、地域移行といったものは、非常に環境も無い中で、移行というところが非常に難しいといったところがございます。11項目目として、中学校の各部の状況を掲載させてもらっております。団体競技において、チーム数に満たないといった状況があり、生徒数の多い千代田においてもこういった状況が見受けられます。以上を踏まえ、12項目目、今後の北広島町立公立中学校の規模適正化（案）向うべき方向性の案を掲載しております。芸北中学校につきましては、広大な校区と冬季の積雪を考えると他の町内中学校との統合は不可能と考えています。

加計高校の芸北分校との連携型中高一貫教育を行っております。県の再編整備基本計画にある地元中学校からの進学率状況を勘案し、広島県と北広島町の設置者は異なりますが、一体的な中高等学校として存続できるよう、県の教育委員会と協議を重ねてまいりたいと考えております。

大朝中学校につきましては、生徒数の減少、地元私学への進学、また部活で千代田中学校に行くといったことから、大朝地域から千代田中学校へのバス通学も可能であることから、千代田中学校への学校統合を検討してもらえればと考えております。千代田中学校につきましては、現状維持を考えています。

豊平中学校につきましては、小学校の学校統合により、中学校の敷地内に小学校が併設されています。これまで、豊平学園として小中連携にも取り組んできております。今後、豊平小と豊平中学校を義務教育学校として新たなスタートができればと考えております。

この義務教育学校につきましては、別紙の資料を付けさせていただきます。

文部科学省の手引きの中にある資料です。義務教育学校とは、1人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校のことです。心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことが学校の目的とされています。つまり9年間の一つの学校。校長先生が1人でという学校です。

メリットとしまして、1つが、いわゆる中1ギャップ、小中ギャップの解消が期待できます。2番目として、小中の交流がこれまで以上に促進されます。3番目として、自由なカリキュラム、教育課程の編成ができます。4番目学力の向上が期待できます。5番目、公務の効率化や質の向上に繋がります。6番目、PTA組織の一本化が図られます。

デメリットとしては、9年間同じで人間関係が固定されやすい。学年段階の柔軟な設定により小学校高学年におけるリーダー性の育成が阻害されるのではないかと指摘があります。転出入する児童生

徒への対応が必要になることが想定されます。教員は小中両方の教員免許が必要になります。校長の職務が過重にならないよう配慮する必要がある場合も考えられます。という義務教育学校への移行というものを考えています。

最後の資料として、資料1に今後の児童生徒見込み数、小学校8校、中学校4校を掲載しております。小学校につきましては令和10年まで、中学校につきましては、令和16年までの見込み数の一覧を整理しています。小学校で四角丸で囲ってありますのは、複式学級。令和4年度については、実績であり、5年度以降は見込みというものになっております。

以上簡単ですが、説明をさせていただきました。

(町長)

資料を説明をさせていただきました。皆さんの方からご質問ご意見等ありましたらお願いします。

(教育長)

小・中学校の方のあり方の中で芸北中学校と芸北分校については、実は昨日、県教育委員会の関係課に来ていただき、芸北分校と中学校の活動を見ていただいております。町としてお願いしたのは、毎年3月の終わりから4月になると、県内の県立学校のいわゆる80名をきる学校というのが、よく記事になりますが、県の県立学校再編整備計画の中で、80名を2年連続きったら募集停止とするというのがあり、芸北分校も今年は80名を切りました。ですが、町としてお願いしたのは「加計高等学校芸北分校は全日制の本校ではありません。元々から分校としてスタートしたので、これと一緒にしないでください。」「そういうタガを外してほしい。」とある程度理解をいただいております。近年、芸北中学校と芸北分校の関係は非常に良好であり、芸北中学校から芸北分校に進学する生徒の割合は、8割を越えております。芸北分校が無くなると芸北中学校の生徒の行き先がなくなるということになりますので、しっかり検討するとは言っているところです。

(町長)

中学校の統廃合はもう少し先だというイメージではおったんですが、ここへ来て急に少子化の状況が加速してきた感じです。これまでも議論は多少あったのかもしれませんが、きちっとしたかたちでは整理をしてなかったことから、今日の取りまとめをしてもらったということです。

(教育長)

県内的には、既に中学校のあり方を公表している安芸高田市が常に新聞等にも出しておりますが、基本、安芸高田市内一校案というのが、どうも強いようであります。三次の周辺部、庄原市、神石高原町、安芸郡は関係ないようです。特に府中町などは、児童生徒が増えて、教室が足りないという状況もあります。広島市内も中心部は横ばいではありますが、周辺部分はどうかという様な状況であります。

全県的、全国的にこの中学校のあり方というのは、早めに保護者、地域の皆さんに知っていただき、教育活動が停滞するということがないようにしっかり考えていきたい。

(町長)

いかがでしょうか？なんでも結構です。

(菅川教育委員)

現状での課題が少しでも今のよりも状況の克服できるようならその方が私は良いと思います。

(長田教育委員)

当面はこの案が適切だとは思いますが、人数が減るというのはもちろん今の現象なんですけど、社会変化がものすごく激しい中で働き方改革とか、いろんなものが入ってくる中で、町としてもっと大きい抜本的な地域の枠を外れて、どうすればいいかというところまで考えておかないと、間に合わなくなるんじゃないかという感じがします。それほど大きな変化がきてるんじゃないかという感じがします。

(町長)

安芸高田市の場合は地理的に中心部が吉田町になっており、周辺部からもあんまり時間変わらずに来れるという特性もあることから、そういう一本化への理解は得やすいところがあるかもしれません。

特に芸北地域は、雪のこともあり、距離も結構あるため、芸北の溝口の方は比較的理解はしてもらいやすいかもしれませんが、八幡の方まで行くと、かなり距離があるために、そのあたりをどう考えていただけるかは将来出てくるだろうと思います。また、豊平地域についても小中学校の一本化したようなかたちで当面はそれでいけると思うんですが、もう少し長い目で見たときには、なかなか厳しいところは出てくるかもしれません。

(教育長)

10年ぐらい前の北広島町もそうですが、学校統合をすれば、新校舎を建築するという流れがありましたが、今後は町の財政を考えても、「すぐに新しい校舎を建てるので合併しましょう。」というようなことは、なかなか言えないと思っています。それと中学校はもう一つ、今あまり議論になっていませんが、子供たちも変わってきています。もう一つは教職員の中には、「あんまりやりたくない、部活は。」「土日は休みたい。」という意見があります。要するに土日は基本的に勤務を要しないために、教員に強要することも、今はできませんし、併せて部活の指導者は、これは国や県の指導ですが、必ず複数体制にするようにというのがあります。昔は1人の先生が一つの部活を朝から晩まで、土日から全部やっておりましたがそういう時代でないというのがあります。

(町長)

部活動の考え方自体が、どちらかと言うとだいぶ変わって来ていると思います。学校教育の中のスポーツだったのが、今度は地域でのスポーツクラブみたいな感じになり、根本的に違いがあったりするため、そのあたりをどう保護者も含めて、解釈しながらどこかで折り合いをつけていくっていうような、デリケートな問題もあるんだろうと思います。今までは知り合いには「大体みんな途中で交代して、出たりするよ。」みたいな雰囲気は学校教育の中ではあったと思うんですが、そこらは少し難しくなると思われれます。

(教育長)

今、町長が言われたことはですね、資料11項目目の千代田中学校を見ていただくとよくわかります。地元の中学校ではない学校外というのがあります。学校の部活動ではないスポーツクラブに所属している生徒が33人もおります。千代田中学校は生徒数が250人ぐらいいますが、実は野球部は公式の大会

に出ることができません。千代田中でも野球部が7人しかいない状況にあります。町長が言われた、学校外の受け皿については、どんぐり財団が少し研究をしておられるようですが、基本的には「豊平の運動公園に来たら何とかしてあげるよ。」というレベルですから、全町カバーではありません。それ以外は土日の部活の受け皿というのはまだ町内では、今のところありません。

(長田教育委員)

今のスポーツ庁が総合型のスポーツクラブをやっていますが、実はなかなかその実態とは離れてまして、都市部と中山間地の、全然違ってしています。それと、指導者の一つの規定もできてないという状況です。クラブチームに関しては学校が終わって夜やるわけですから、仕事を終えてからできる人がいるんですが、部活ということになると、延長線上ということになると、指導者の面が問題になってきます。

資格制度とかあるんですが、なりたい人が指導者になれるのかといっても、そのへんの問題があり、かなり時間がかかるんじゃないかと思います。北広島町に関しては、やっぱり人材が難しんじゃないですかね。そこら辺の懸念が随分あります。

(町長)

本当に運用していくとしたら、まだまだクリアしなければいけないことがたくさんあります。

(長田教育委員)

指導者だけじゃなくて、学校の先生にもいていただかないと。

(町長)

そうそう。

(長田教育委員)

子供さんもいきなり、ぱっというのはなかなか難しいです。

(町長)

技術的のところは無理でも、トータルとしては指導の面はある程度関与するとかですね。

(長田教育委員)

心の問題とかは先生しかわからないみたいなところはあります。

(町長)

そうですね。そういう課題も残しながら、中学校の場合クラブ活動が特にありますね。

(教育長)

今、言われた部分の中学校の部活動というのは、競技力を上げるという部分と、もう一つは、1日の生活の中の連続した部分があります。友人関係だとか、いろんな悩みを持っている子供のケアだとか、そういうところも部活でできる部分もあったりして、長田教育委員さんが言われたように学校の先生が入った方がいいんじゃないかという面もありますが、いわゆる教育課程外ですから。やらなくてもいい

んですが、一部ではやって当たり前みたいに言われると中学校は困るんでありますが。

(山田教育委員)

長田教育委員さんが言われたように心の面というか、メンタルというか、ああいうところのカバーをどういうふうにするか、学校の教員と外部指導者がですね。だから、外部指導者は技術だけつけばいいんであとは知らないというのも困るし、だからそこら辺の外部講師と学校の関係がすごく大切になってくると思うし、そうなってくると技術だけじゃなくて指導者として迎える学校としては、そのへんも考えていかなければいけないけれど、該当者が少なくなるんだろうということは感じます。部活もやはり教育長さんが言われたように変わって行くんだと思います。競技力で言えばクラブチーム、生涯スポーツは学校みたいな感じでやって行くことが今必要なのかなと思います。クラブチームだったら親も自分で送り迎えもしますし、お金もかけるし、時間も使うし、そのぐらいしないと競技力というか世界へ通用してプロになろうと思っても無理ですね。だから野球なんかもクラブチームに入っているのが増えてきてるのは、身近に参考になるいい例があったから、なのかもしれません。そういう状況になったりするのかなと思ってます。

あと義務教育学校のことについてデメリットも何点かありますけども、実際、現在の1小1中の学校もあって、もう9年間、保育所からあるんで、そこらへんは義務教育になっても変わらないと思うし、教育課程について小中の教育課程の理解できてる校長先生でないちょっとすごい難しいだろうなと思います。

メリットの方を考えれば、これはいいんじゃないかと思います。感想みたいな意見になりました。

(教育長)

山田委員さんが言われたのは教育的な面からの義務教育学校の話ですけども、私の経験からすると、今度はその教育的な面以外に、学校統合ということになると、自分の地域から学校がなくなる部分もあります。そういう反対に対する説明の難しさはありますが、義務教育学校という選択であれば、豊平のことで言えば、豊平地域の中学生は、そのまま居るとということから地域の理解はできやすいかとは思っています。実は、教育委員さんの中でちょっと豊平に関わる教育委員さんと教育委員会で、竹原市の吉名学園という学校を見学させていただいています。現在、広島県内には義務教育学校が6校あります。来年、呉市の天応小中が義務教育学校に移行します。結構全国的には増えておりまして、確かに難しい面もあるが、メリットの部分もあります。豊平学園の方は金田さんが、協議会コミュニティスクールの関係で、一緒に行っていただいて、賛成だ、というふうに今、言っていただいており、もしこの会議で、OK が出れば、保護者の皆さんや地域の皆さんにもお知らせをして、早い時期に取り組んでいきたいというのが教育委員会の思いです。大朝については、地域もいろいろご心配いただいているんですが、大朝小、新庄小もいわゆる小規模化をしていますので、このままにしておくわけにはいきませんので、まずは保護者に今の現状、児童数と学級編制の話はさせてもらいたいというふうに思っています。その場所をどこにするのかという話はまた別の問題として、近い将来、大朝小、新庄小は一緒にせざるを得ない人数ではないでしょうかというようなことを、お話をさせていただき、大朝中学校の保護者の皆さんにもそのお話は当然していかないといけないと思っております。

(町長)

先程、長田教育委員さんの方からもありましたようにたちまちはこういうかたちにさせてもらいたい

ということなのですが、芸北は距離的な問題もあり、もう少し長くそうゆうかたちでさせてもらいたいとは思ってる。豊平地域の場合は、小中学校ということで、当面はやらせてもらうんですけども、どの程度先でどうなるか今はわかりませんが、距離的な面で言うと、今回、広域農道もトンネルが開通したりしてくれば、距離的な部分も解消してくると思うし、人数の減少がどの程度進むかということによって次の段階がそう遠くないうちに来る可能性もあるかもしれないというところもある。その辺はどうでしょうか？ご意見があれば、聞かせていただきたいと思います。

(大谷教育委員)

豊平の現状として令和14年度まで見させていただく中で、これだけ減るんだというのを見せていただいて義務教育学校というかたちにしていくのがいいのかと思います。今だけを見たら校長先生が一人になることは少し不安だったり、建物は別な方がいいのではないかと心配な面は保護者の目線ではあります。協議していく中で中身も充実していかなければいけないと思います。

(教育長)

さっき言われた町長の全部千代田に集めるという発想をした時に、現在の教室のサイズ、教室の数、今の千代田中学校の各教室は大体30人ぐらいがちょうどいい広さになっています。今年1年生が2学級ということなので、少し狭くなっています。まだ1年生ですから体が小さいからいいですが、3年生になったらちょっと考えないといけないというのがあり、全部を千代田中にとというのは、今度は校舎の問題があります。

(町長)

いずれにしても、たちまちはこういう整理でスタートをさせてもらうということで整理をさせていただきます。今後、随時検討しながら進めていくというようなことは思っておかないといけないと思う。

そのところを若干意識しておくということで、当面はこれで減らしてもらうという整理でよろしいですかね。

(全員一致)

はい、それではそういう方向で進めてもらったらと思います。よろしくをお願いします。

その他は。

(学校教育課長)

事務局から持ってません。

(町長)

それではこの総合教育会議を終わらせていただきます。今後ともよろしくをお願いします。以上で終わります。

○閉会